

△指定都市の「平成24年度国の施策及び予算に関する提案（通称：白本）」について

◆（加納委員） 伊藤委員の質問に関連して確認したいのですが、こちらが白本をもって意見なり要望なりします。それがどういう形でこちらにフィードバックしてくるかについて、見える化という御質問だったかと思えます。國原室長の答弁としては、次の予算にどう反映しているか、予算の中でということでした。そうすると、私どもが議論している中で、19政令市で言ったものが、もう少し見える形で、横浜市がこういった委員会の中で具体的にどう表現していくかという工夫が大事ではないかと思うのですが、どうですか。

◎（浜野政策局長） 見える化ということですが、結論的には制度の問題はありますけれども、少しトライしてみたいと思います。去年要望したものが、何らかの形で反映されたとか、まだ全然実現できていないとか、少し明らかにしておきたいと思います。前年度要望したことで継続してまたことしも要望しているものもあります。それから新規という形で出しているものもあります。だから、継続しているものは、去年要望したものが実現できていないということですが、もう少しわかりやすい形を研究してみたいと思います。

◆（加納委員） 私がつくづく感じるのは、本市は一生懸命頑張っているけれども、データを持っていないとか、データの管理ができていないとか、データの分析ができていないとか、そのことについて行政から議会に対して見えるような形で発信していただけないと思っているのです。そういう意味で、こうして毎年発信することはわかるし、その中身について議論させていただくけれども、以前のものがどうなったのか、どういう状況で、どういう理由かを含めて、次の議論も大事だけれども、今まで行ってきたことについてどうなっているのか。そのことをベースにして、実は前回だめだったけれども、もう一度継続的に今年度もということが、もう少し議会側に見える形で工夫すべきではないか。大都市行財政制度だけではなくて、全体として思いましたので要望しておきます。